むめの枝

十二

祠を名ぐさめ

[V.32]

PL788
.4
.G4
1654
vol.32
copy 1
Asian
Japan
Cage

200455302

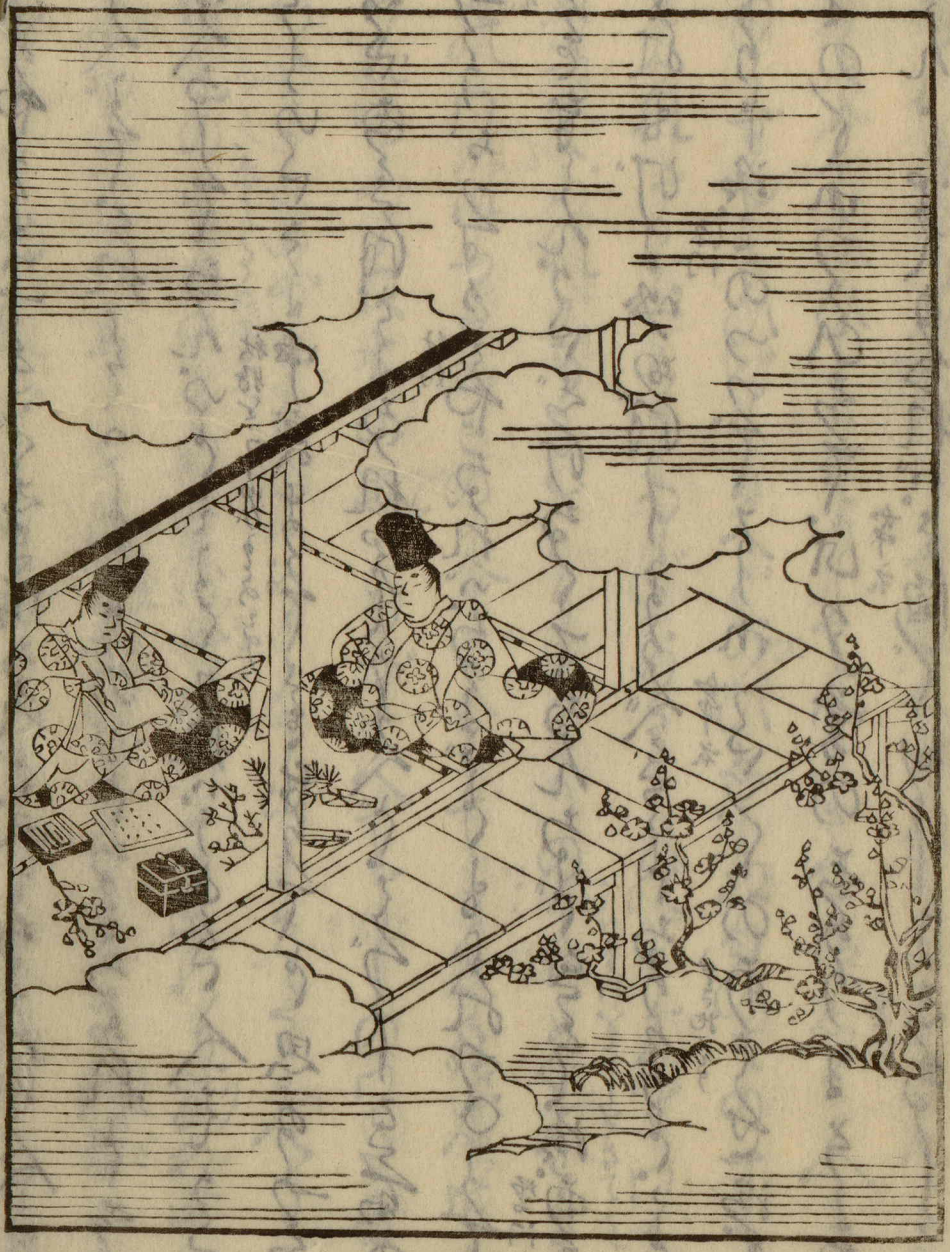
37

法氏廿九年の正二月のころ　（ほう）（名残おしきこと）
れもなきのこと。そこ（ほう）つぐれこころもそそれつる
るこず。春宮もおはすで二月まれうりのころ
うべくれどやでれありもみつべくべきや正月の
ひごまりるれどおはやけのさくらのどやうなかれ
ひよ。焼地合（さくらもれあり）の六条（ろくでう）のまれる番どもは（ほう）ゆくん
ずのこうをいうへのこ仕をうりてやおくんと
そこて二条院のれうこあけをのそて。こ
のまれどうりつくこをのみて。ゆくんじうこ
ゆくこあやるどもれみるこまれこそるうこう
うやうこはありうれそて。ううされこつこひの
まれこおひ。そうそ地（桐つぼ帝）もうれるどのうこれこ。右院の

世のことのつゝしこまうでゝそうろうけり。
おやひえんこそぞもどく今の世のはゝぶれ
ゆくえんどおてつゝしませのてこのこびのおやう
すもれもどいへくよ法の子ぞうどもい昔今のさうり
もくべきをのてゝれ(女中元)ろうぐよろぐりまゝせ法ゝる
ろさづゝおこをさせゆへくさそしさせうまへて。
とくり地ご道ゝのろくもどく世よおさ御ゝ間ゝよも
ともまそぐいくおこをゆるそへてうぐ(幸)よえうとそ
のへてゝかうすのをこうこうもうこさこころおり。
(ほ)おらぐいそん發よもうれおうてまして。そむひうめ
いつうゝれうろのゆうをうゝでうれこうまゝ

ろうそうつうへんなひとまれをぐれうん
ともをうさおそていれんくそをぬぐり二月の
十日面すうてありておまへうさ紅梅(こうばい)うりう。
多もうもよろもれおうさ行(ぎょう)。等ろの文(ふみ)うりの入(い)り(行)れ
いそぐ(ござのうえ)のうまおすよ必ずけうこしくうまひうそそ
のまむうりうりつうさうれ中うれて(つづ)陽うく。
そのようれくうくうまおのをのて茶をうで
てかとうするのぐる。茶(ちゃ)放院(ほういん)うりとてうりすうさうろ
物の役(やく)よ付(つ)うれおうこまてまわり。文(ぶん)(堂)うさうてめすこ
ともおれがいう(行)うれもうそこのすうこまわりよう
うて。かうしよものばしうれがはく(保)おうそいぐ(行)うれ

ぶくろをめせ。いろうるしのふくろ
ぞ。そのうへの四そうがへうち。女のさうぞく
づ。ぬれ迫もその色のごとくそ。おまへの物
をも。堂刀
ぬ。そつぴきも。文。うちのごとひやうぐ
文れ。はぶのうへろへおろよう。ふくぬ
ようそ。いもゆ。ふそ。ふうおよ添刀
ぬん。ぬぐ。ぐ。ふそ。ふとふ
そ。ぬ祝のぬぐ
ほ
それのそよいとぐそろをもろれへのとが
めんをがつぬぐ。ぞやあろうん
地



ほうこそいづくまもらりつゝひろうべあうを人
人の心ごゝろ合ひつゝおうさあうさをうごさあうそを
のべくるよいつくけうあうこよりおりうさうりいづれ
たるさ中よ。詮院のれうろぼう。さつへども心よく
そうづやうろう自ひこくおりそうぐうのおよぐのれご。
そぐられてあ風のうこうろうこさう心とそうぐの給。
基のうへのれご。ころさあう中よ梅当(とう)られやうよ
いまうこうずうこやこころうそうこひをうへて。
めづこさうりくくわり。このごろの風う
うぐへんこいさうまうれまうろ風ひおうぐと
めぐ給。をのれ(なう)うへくのうう。ころうぐよ

いぶこと治まる中よりぐくまもうち出ずやと。
煙(けぶり)をさへもひこゝろへのべくれ心まて。ぐ前(うへ)策(はかり)を
一ろさ合のくり。さ風(かぜ)ろりそめやうろうて。表
まるつ。冬のれ方(かた)まも。ぱくこまれろまひの
ぐまれろこげされんもあひろとそこて。
そのえくのぬうすぐれうかさきれ筆雑院のを
うけさをもて。公忠(きんぐ)の私(わたし)のことこえひつこうろ
わろ。百姓(くさ)の方(かた)ぐそひえて。ろぐぐそ海めく
さをうあつあろ心をこえてぐれうと。いぐれ
ともむぐくるぐさぐめ給(ほ)をこうぐくるき到(ゐ)
ろありとこえひ給。二月の初比(ころ)

末なて音の拍子ちがひ。なめる所のうけ
うくうろ紙面のちがひの風すこし吟て。常の番ろ
うくうろ。おなじのあらいひうござ自ひこちて。
人のれ心ちいとえんちう。義人ぶのうこうも。おなの
れおうこびのうちうくうろこれうこぜのうこうぞく
ちがうて。音よべちがあうこ多て。なうこ当のをぜ
字句。内のおなじいうの乳中れ。拍子れ手おれちがうも。げざん
うこうこてうづうを。ほうがめうこをのて。れうこうこを
なす。常のおうへよびも。ほうこうこうこうのれうこく
多て。乳中れ和琴ワゴ面うてうこうやうこうさ
うこうこ行いうこおもうこうこ字句。事れの中れうこ当

みさのみ（御）ありて（有）あのくろ（黒）御子（御）雲井（雲）とをうごうろ
みさうそくろ（黒）弁（柏ノ手）かね梢（ひやう）さうて（有）梅がえいぐ（ぐ）うろ
行いくあり（有）つ（つ）へうそくみんかうざのあり（有）るねうろ
ひ（ひ）ーまあり（有）堂ものあ（あ）ら（ら）ぐ（ぐ）もうーいへまのひて（て）
うろ（ろ）ーうろ（ろ）ーねあり（有）ろ（ろ）ーあり（有）ろ（ろ）ーき夜のれあそび
あり（有）れうろ（ろ）ーけまうろ（ろ）よ（よ）堂
宮のうまうやいうぐ（ぐ）あ（あ）ーぐ（ぐ）れんうろ志筑
つ芸のあうりよ（よ）お代もへめべ（べ）ーとうそくしのへだ
ふ（ふ）る雷もうつぐ（ぐ）うりよこの雲いもれさくやど
をれずもあ（あ）ーるん乱（柏）中れよ（よ）うまへだ（だ）ーうとて
寧れ中れよ（よ）う寺

拍
鳥のねぐらのねもろびくまでうをみさと
をせこその笛こそ行。寧和中納
心ありて風のうぐめもこれのまよとうあへぬ
までみさやうべき。情もくこそこれおりつひ給。弁の拍子
ぞ。月こそとをべそずいねぐらの鳥も
はゝうびちまつ。まとくる明ぐらす吹てぞ笑入
給れをうり物よ。うづらのれうのれちをつ乃
はゝうひ一そぐりてみれ給ひめ焼物二ゐばそへて。
車こなつせのふ堂
堂のをえちめ袖こうゐ一まてこくあや
ちうくいまやとぐめん。とあればいとうくうやと

つゝひ給ひ車うち乗ほどをもて
(涼)めづらしと思ひくべも給ぞうんとそれのうへこそ給
そてくるゝ夫(涼河)のちさきこゝろくおぼさるゝうんとあれど
(堂ノ)めづらしきうへ給ひつゞくのえだちもてこゝ
ろうつりぬる給ひてちかきほどうち
けのみゆるて西のおとゞ(秋好ノ氏殿ヘ)まいの(明石姫ノ)ひめ君給ひ
(秋好)家のおりまもるのそれちぞをそうひて此
うへあげのかいまぜもやどこちふこまいれる
(堂)うへもこのついでに中宮(秋好)これ対面あるべしうへ
の女房をうへあそをそうち教きこゆるこゝろ
(明石姫ノ)これもなり給ひとゞめ給ひつゝ

いとめでうつくしげなれ（秋冰汙）おとなびたれば
をかしまでこそなけれそこはかとなくうちあげたる歌
（まゝ）のさまなどすゞろにめでたくおぼえてかの
（秋冰汙）ものがたりにいへるやうにもあらねどたゞ
ことばのつゞきうるはしくこまやかにて
こゝろもとまるふしぐ〳〵おほかり
ぬべくとのみ（比）ひとりごちられけるこそいとゞ
あつぎやうつきてうるおぼえ（ほん）ぐるおぼえ
ぬけどひごとのごとつゞけのべたるをおそひめで
うつくおぼえ（名）ぬ歌のこゝろばへなどもいと
つゞきてこゝろにくゝて（まゝ）のびやか

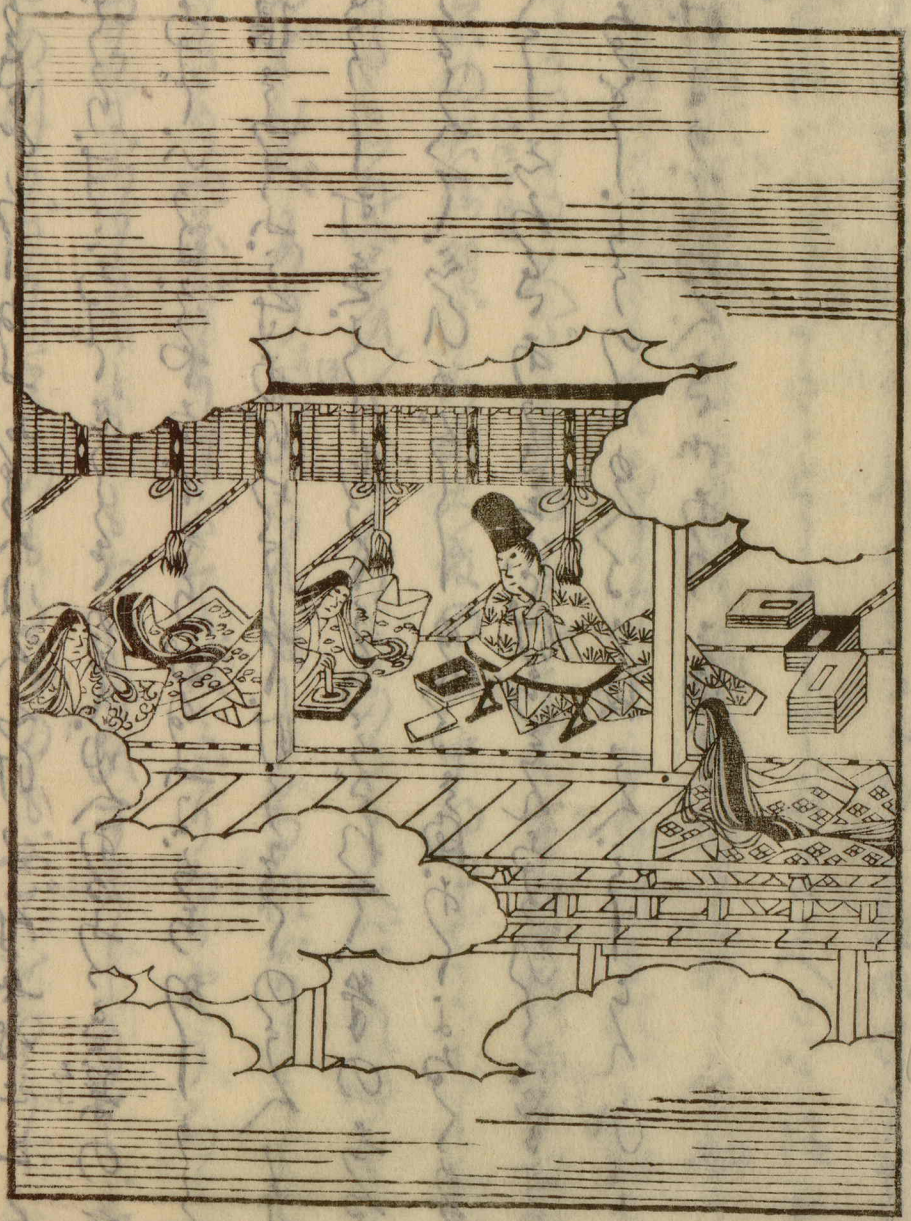
きまりとなりぬるを。人の知ひとつゝそるゝ（ぢ）
地うら一面の（ざ）式（しき）にうちそろひぬるこそなほくうらやましけれ。ゝゝゝ何のたゞけちなくまれ
ぐしも。中くゝやうやう面うちうつ。長（ちゃう）元服い（ぶく）夫よ日のほどまんをけ（ぎ）いとなりくしくなりまをべ人のむすめどもをひまつ（ぢ）ゝそべきことゝ心ぐしなりぬるをいとうざうさ面のいとゝくもれバ中ゝうてやまのぐらうえん（ぢ）たのかゝるぐ（ぢ）たちゐちどもおぼしくまうちうを。
（ほ）ゝゝゝめて（ね）いとうるはしくさゝやかにうち（ぢ）ゝ文（ふみ）ばかりすぢにおもふ中よ。すゝしのけぢめをいど

まんこそはいちじるしきものなりけれ
のひさしあれどおほとのごもりて
まりのびぬるぞくちをしかりける
ふるさとにかへりてのち
あめ簾(すだれ)家數(いへかず)とをこのほど(ほかつぐ名歟)
のおもてもこだち(木立)のさまもひとしなみ
のびゆくをやはも心もとなくおぼえ
よとさだめさせ給ひてうつせのへだて四月(ほ)
とくのへてかへりいでたまふをやうやう
ともかくもいはでうちなげきあかしくらし
ありてすだれ

さもさう〳〵のそこどもこいうべさまざましゞの
やどてなんもゝおもふべさをそうせん。つう〳〵へのう
ちゝさくいのれるだの。せよろをのそ〳〵のへる
ごひのもつくはくさふ〳〵ふうろ(浮刊)びのくと。昔
よいをそうごゆる。おそくぬりせのすゑなれど。
えんれこゑん今のせいとさけちくちりうう。ふうさ
おとゝさぶまれうやうよいおれどひろさゆゆくう
ちず。すぢよううひてゑんありけふへよおゝ
〳〵さくそどうりてこそさいびるひとぐを
れど。おでをろろよいれてちひ〳〵さうり。
そもちさなおはくつべへうろ。中(秋好)ぞの

今の世のごとおろかなれどおもりそばれてうをぞ
そひうめろうけありうもれ(勝)えと(推)前栽院と(宗)うま
とうそういうう話もめとくゆうしうううまへいこの(宗匂)
うずよいまうでゆくやとうえしのまへべいうう(添匂)
話そまうやもうううのうううしはうとうちるか
あれをまんちれすくいうううぞよんちけちぞけ
ちうさまぢうそまうでるめれそまうぞうめさうし
どもつくりくうへ表紙ひもちぞいうぐうをうせ給(宗)
給ううの文左清つ塗ちぞよまれちんこべうひとく(一冠)
うろひいうくべし(宗ヲ)乳色ぞうこいますうりとも(添ニハ)えうさ
ちうべぢやと(地)いればめをし給(宗ぞ)雲母ちうべちく

そり出て、前のところ〳〵こぐちもあれもうそこ
あれべ〳〵ぐらさこと云て、おらっち人さ云ふをも
あれべ(ほ)まあやらよさそし給、こまのうちのうすやう
ぐちらうが、まあてちまあ〳〵そをびまれごのこと
すわうさん〳〵ぐらうえんとて、掌(タ)お中お、或(さん)ての
家の長清(ほほ中ぬき)楽、うちのお爺の乳(柏)中おちぐよ、おし〳〵で
うふをそ、そのくよう汁とのくまん〳〵べこれ心ぐこ
いぐもべあり、前(ほ)のそん爺こそられなりまして
うさのふ、そざりすぐて、漆こぐりちう先うらくら
ちうよ、ちうさこともちうぐちのすまし〳〵のて、吉
心のりぐり、さうのもぐのもぐをいうぐう



堂 なくつゝ文わすりおくこゝろもれば(泳)おどろきて
れうをこゝろまうけまうりれもこゝろわまうりうへさを
めて、やがてまうちうりれそまうり泳こゝ
堂 家もつくこゝろげて、こゝろ、海うくあるこのぼり
泳ほどうちうよも人ごのぞさてこゝろ(堂ほ)うちうし
まうりて、こゝろようもうしづうちうまへうもいつ
こゝうもつれぐよこもりおも(泳汀)うし、こゝまで、ふ
めへうくこゝろのおびけさ、おりうくわこゝも
めへるとうろこびうしまふれ(堂地)れこゝうしもも
こゝもて、わこゝうまへうるりうこと、やがて(ほノ)ゆこん
ぶればて、れてまあこれるをうごうこと。

ろびよりぐしてるるれそそ拍ぜ人のれ門まぐぐ
ありぐさげる中ま。これやどもるんゆーと。
心うぐさ結ワろ人ろまなりりけるれ忘よもとく
のへさも結中ま。れすまの日記い。すぶまもいく人
もそもんとなばをぐいますそーせもそーもり
るんとなばーへーて。まぐうり出結ワぶ。うちも
おそぐいこのれいそぐを。へのうへよて字ももも。
いそぐう心許る。そうぐーとなばま。姉ぐそこのれ
有結そりまくののて。おそそもう書へうげ
るり。つれぐとうちもありのへるほど。うそぐさ
れちげさぐさるま。れひとのれ名そるいまぐ。

やうなるごゝちされがこゝろもくすこゝうんも
ひとつつくれよ人のわんびなりしさざこゝろ
うびさるまゝうがるど・ひくこれぞそゝちびそ
一ろよつこともえおほきこ面もぞ・くすこ
こゝをこゝまへつれくこゝを・寧ねのこゝこもこゝ
めへど・そぞ一つこゝろ一れこゝろをうー
さへづれちくもそるこゝうびめそ・さすごよはう
ぎ面のこゝろいいうべくもうぼず・こゝろげこゝ
ゝれこゝれくさおりおほれど・おさこぞうこゝそ
ごゝろ一れめれとぜよ・納ろよのぼりてみしすろ
ゝうこゝべ一・泳ろとぶいおわ記一くこゝさこゝお

ちひのぼれど、心ゝもちもうそぶ。限あるねうじ、ずきずきゝを心つくるか。つくり（ほり）けり。ちくらうの家のうちもりのひとて。男と心もまもるをず有をくいうれんとのおやまりもあこぶ。ろうぐもちさそもりをねとこんとつゝこゝぐる。ちをすることぐもちさとぐをねのて。するもゝこゝもあれさゝうねあくねとあこゝ男の有うちとけ心のまゝあるあまひちぐねもゝるお心をのづゝをゝうめれど。そひもぐせ（一人ゝゝひまゝゝゝ

なんぼおのぶしくありけるぞ。ありやまりつ
え人のわざこころよれりぞ。それぞんことくろさ
みてありとも。れそひえんこころをるしひて。まこと
なやの心ゆづり。女教ろくなりあさはい離別とあそこと
ありとも。へぐこころろぐくるぐあえんをぐ。
それをるぐ。ぐをてもこまへ我こあへの
こあつおまろべさ心でありあべさなぐ。
のぐやこれぐちありい。ろこころづひを
のこをへなふ。タんやうちれいこあありいまて。
これてもはぐ俗の心をそひろい。表よ
へやるぐおはしのふ。女まつれるいこと。

おもくのうひ給(たげ)そのくるれ気文ふそぐーうあら
まとぞーちびめぐ入へいれるくおとうて
ちぐあすぐーおれ(れ)文いやひあまりおりく表よ
心うさうあるそそそおぐまことをうとやひ
ちぐーよられう人へてあれぐうよ人のうころ
ともうさぐふられ表とそおりーおけう中務(おとうる)
宮(源)ちん大夫よもれくーうおりて・さもやと
おぼーくうーうるうと人の笑(公)れぐおうぐべひさ
人へーれもあうぐるべーまびてうこくまそ
うくーが情(うち)ある人のれ心よもおりけうれ(泳)おとぐの
うらうれのひーよもうれうそてびそぐ

69038
6AP78